



## ♪♪♪ 旅立ちの日に ♪♪♪

いよいよ6年生の卒業式が、19日(金) 举行されます。保護者の皆様にとっては、6年前、まだ幼かった1年生の頃を思い出し、感慨もひとしおだろうとお察しします。過ぎてしまえば短いもの、とよく言いますが、ここまでの道のりは平坦な道ばかりではなかったと思います。お子様の卒業に際し、心からお慶びを申し上げます。

さて、コロナ禍の卒業式ということで、国歌および校歌は斉唱せず、演奏を鑑賞することにしており、結果、6年生が歌うのは「旅立ちの日に」のみとなります。ご存じの方もいるかもしれませんが、今では全国の小中学校の卒業式で歌われているこの歌は、今から30年前に埼玉県内のある中学校で生まれました。この曲を作曲した坂本浩美先生は、次のように語っています。(柞内は秩父市立影森中学校HPより引用)

『1991年3月、埼玉県秩父市立影森中学校の卒業生に、「卒業生を送る歌」としてプレゼントしたのがこの曲です。他校から一緒に影森中学校の校長先生として着任された小嶋登校長先生のお声かけにより、「歌声の響く学校にしよう」を合い言葉に、学校全体で心を合わせ、いろいろなことに積極的に取り組む日々が続きました。それから3年後・・・卒業式前に学校が生まれ変わる原動力となった3年生のために、世界に一つしかない贈り物をしたい・・・そう考えたときに曲をつくることを思いつきました。ちょうどその年は小嶋校長先生が退職される年でもあり、詩を書いていただくことをお願いしました。素敵な詩は一晩でできあがり、私も詩をいただいた朝、15分ほどの間に旋律が沸き上がるように生まれてきました。そして「3年生を送る会」のステージでサプライズとして先生方全員で歌ったのが初演となります。その後、憧(あこが)れだった松井孝夫先生に、すばらしい混声三部合唱に編曲していただき完成しました。』(教育芸術社 中学校の音楽2・3年下 研究編より)

たった一度きり、「3年生を送る会」で歌うためのサプライズ曲が、翌年からは生徒たちも歌うようになり、それがきっかけで周りの学校に広がっていききました。

卒業式では、在校生代表として5年生のみ参加することにしたため、11日(木)には1、2年生に、12日(金)には3、4年生に、柞小タイムを利用して、呼びかけと歌を披露しました。また、16日(火)に、予行演習を行いました。



6年生の歌を聞いていると、胸が熱くなります。今年の6年生は、「校風をつくるのはわたしたち」を合い言葉に、コロナ禍の中、学校を動かす原動力となってくれました。この子どもたちの前途が洋々であることを祈らずにはられません。

卒業に際し、6年生一人一人、それぞれが、さまざまな「思い」を胸に抱いていると思います。式では、その思いの集合体である「旅立ちの日に」が体育館いっぱい響き渡るようすを、6年生の保護者の皆様にはご覧いただきたいと思います。当日はハンカチを2枚以上、ご用意ください。

### 旅立ちの日に

作詞 小嶋 登  
作曲 坂本浩美

白い光の中に 山並みは萌えて  
遙かな空の果てまでも 君は飛び立つ  
限りなく青い空に 心ふるわせ  
自由を駆ける鳥よ 振り返ることもせず  
勇気を翼に込めて 希望の風にのり  
この広い大空に 夢をたくして

懐(なつ)かしい友の声 ふとよみがえる  
意味のないいさかいに 泣いたあのとき  
心通ったうれしさに 抱き合った日よ  
みんな過ぎたけれど 思い出強く抱いて  
勇気を翼に込めて 希望の風にのり  
この広い大空に 夢をたくして

いま 別れの時 飛び立とう 未来信じて  
弾む 若い力信じて  
この広い この広い 大空に

いま 別れの時 飛び立とう 未来信じて  
弾む 若い力信じて  
この広い この広い 大空に